

三年間の努力が実を結び、幸多きこの日を迎えたみなさんに、職員を代表して、心からの祝福を述べたいと思います。

また、お子様の成長を心待ちにし、深い愛情で見守ってこられたご家族のみなさま、本校の教育に一方ならぬご理解とご協力をいただいた地域のみなさまに、心からの御礼を申し上げます。

さて、みなさんとの三年間を振り返った時、まず思い浮かぶのは、二年前、サランカホールで聴いた、あの合唱です。伴奏にのったみなさんの歌声が、ステージから客席まで飛んできました。それは、屈託のない明るく元気な歌声でした。みなさんのこの年は、合唱のように、何か失敗があっても、それを正面から受け止め、前向きに解決しようとする元気がありました。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大が、学校生活を一変させました。三か月の臨時休校後、学校は再開しましたが、様々な行事が中止となり、みなさんが思い描くような学校生活は送れませんでした。

けれど、みなさんはくじけることなく、よりよい学校をつくろうと努力しました。例えば、絆づくり集会、先輩と語る会。やらないという選択をせず、学年を越えた小集団で話し合い活動を行いました。文化交流会も、兄弟学級で学年を越えた合唱交流をしました。

生徒会リーダーの言葉にも、リーダーを支えるフォロアーの言葉にも、よりよい学校をつくろうとする思いが感じられました。立場や学年を越えて仲間を思い、共に歩んでいこうという気持ちが表れていました。

困難な中でも、自分の仕事を果たす、自分にできることをする、そんな誠実さを、みなさんから感じました。みなさんの活動は、私たち教師にとっても、一つの希望でした。

そして本年度、生徒会や加納中チューターの活動の中で、学年を越えた話し合い活動や合唱交流が継続され、人とどうかかわるか、自分はこれまでどう生き、これからどう生きていくのかという哲学的な事柄を、全校で考えるまでになりました。

それぞれの場面では、三年生のみなさんが必ず一・二年生を支えました。むずかしい言葉は言い換え、沈黙が続けば話題を提供しました。一・二年生にもその気遣いが伝わり、三年生への信頼が高まりました。全校集会では得られない、一人一人の考えを一人一人がしっかり受け止める機会となりました。体育祭、学習発表会、野外総合活動、文化交流会も、同様の努力と工夫で、新しい形の行事が実施されました。

加納中学校に新たな風が吹き抜けた、コロナ禍の二年でした。

そんなみなさんに、最後のメッセージを贈ります。佐藤多佳子さんの小説に「一瞬の風になれ」という作品があります。高等学校の陸上部を舞台に、主人公 神谷新二と、幼なじみの一之瀬連たち陸上部員が、毎日練習に明け暮れ、本番のレースに臨み、結果を受けてまた練習をする、仲間と悔しさや喜びを分かち合い、共に過ごす三年間の物語です。

この小説の中で、主人公 神谷新二に、先輩である守屋がこう語ります。

「陸上部という部が選手を育てるのだ。いい選手といい指導者がいても、まわりに競い合う仲間がいないと、なかなか伸びないのだ。部員同士が影響を与え合って、練習であいつがここまで頑張るなら俺もとか、試合であいつがここまでやれるなら俺もとか、相乗効果で全体がレベルアップしていくのが理想だ。」

これは「仲間の中でこそ、人は成長する」という意味です。そして、みなさんに伝えたいのは、みなさんの学年集団にはこうした関係があって、その中で、みなさん一人一人が成長してきたということです。仲間の頑張る姿を見て自分も頑張る、仲間のために自分の時間を使う、くじけそうな仲間を励ます、悩んでいる仲間といっしょの時間を過ごす。みなさんは、「よりよくなりたい」という一人一人の意欲を互いに認め、励まし合い、学び合い、互いを高めてきました。そして、あきらめず努力し続ける気持ち、人を思いやる気持ちを育んできました。新たなステージでも、この三年間のように、互いに高め合える仲間をつくり、その仲間と共に、よりよい自分をつくってほしいと思います。

もう一つ、この小説にはこんな言葉もあります。「努力したぶん、きっちり結果が出るわけじゃない。だけど、努力しなかったら、まったく結果は出ない。」

努力しても、なかなか結果につながらない経験を、この三年間でみなさんもたくさんしたはずです。そんな日々に、どんな意味があるのかと思ったかもしれません。けれども、少なくとも努力したという事実は残ります。こうした行為とその時の感情が、自分という人間を育て、かたちづくっていくのだと私は思います。大事なことは、結果が出なくても、自分が納得できる努力を続けること、そこにある失敗や喜びから、具体的な教訓を学び取っていくこと、そして、少しでも自分が納得できる場所に近付くことだと思います。

これからの人生も、中学校生活三年間のように、季節が巡り、年月が移っていきます。

みなさんが新たな仲間と共に、努力を続け、さらに素晴らしい人生をつくっていくことを祈って、式辞とします。

令和四年三月七日

岐阜市立加納中学校長 七野武稔